

第12回山のトイレを考えるフォーラム開催にあたって

山のトイレを考える会・代表 岩村和彦

皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素より当会の活動に対してご賛同、ご協力、ご支援を頂戴し心より御礼申し上げます。

当会の活動も12年目に入りました。毎月一度仕事が終わった夜7時頃に集まり、粛々と議論を重ねています。会の活動内容については先日会員の皆さんへお送りさせていただいたニュースレターをお読みください。今もって理想にはほど遠い北海道の山のトイレ環境ですが、少しずつでも前進することが我々の喜びであり、目的であります。

個人的なことで恐縮ですが昨年9月に10年振りくらいで大雪山のクワウンナイ川を遡りました。この沢は3度目でしたが、そのスケールの大きさに改めて圧倒されました。1泊目は魚留めの滝横にテントを張り、翌日はヒサゴ沼にある避難小屋に泊まりました。一番気になっていた小屋付属のトイレの状況でしたが、便層にゴミは若干見受けられましたが、トイレそのものは汚れもなくまずまずの清潔さで僅かながら安堵感を覚えたものです。

当会で設置した清掃用具と注意書きの看板が多少なりとも維持管理に役立っているのだとしたら嬉しいことでもありますし、またここを利用する登山者のマナーに対して敬意を覚えるものです。

さて今年のトイレフォーラムのテーマは「本州の山トイレ事情・土壌処理に学ぶ」です。山岳トイレの選定、設置、維持管理の難しさについては改めて書くまでもないことです。特に北海道には厳しい気象条件、有人の山小屋が殆どないということからの日常の維持管理、尿尿処理問題とさまざまな問題が山積しています。

当会でも土壌処理については検討を重ねていますが、本州で実際に行っている土壌処理について専門家の岡城孝雄氏より多くの示唆に富んだお話を伺い、北海道での可能性を探りたいと考えています。また実務として山岳トイレの維持管理に携わっている神奈川県吉田直哉氏の具体的なご講演内容は今後の会の活動に大いなる力になるものと思っています。

今日フォーラムに参加されている皆さんの誰もが綺麗な北海道の山岳環境を望んでいるという点については議論の余地がないことでしょう。しかしそれに至るアプローチの仕方や経費を含めた維持管理などそれぞれにご意見があることもまた当然のことです。議論を深める中で英知を集め、次の世代へ何としても我々のふるさとである北海道のこの大地を引き継ぎたいと切に思っています。

今後とも当会へのご支援をお願いし、簡単ながらご挨拶に代えさせていただきます。